

# 大陸交流の架け橋

## 五島列島 新上五島町

日本本土最西端から60kmから100kmの海上に位置する長崎県五島列島は古くから大陸交流の中継地として栄えてきた。古代では遣唐使船南路の風待港、避難港としての役目を果たし、伝教大師最澄や弘法大師空海などの高僧が来島したといわれる。山王山の雄嶽日枝神社は山王信仰を今に伝えるが、この山は比叡山延暦寺を開いた伝教大師最澄により開かれたと伝わる。肥前国風土記にみえる「相子田の停」や続日本紀にみえる「合蠶田浦」は当地の相河(あいこ)や青方(あおかた)と比定され、その周辺においては遣唐使船にちなんだ「御船様」「姫神社跡」「ともじり石」などの史跡が伝わり、「高仏」「三日ノ浦」「今里」「錦帆瀬」などが地名として今に伝わる。太古の昔、この地より夢と希望の大陸に向かい、また荒れ狂う大海より命からがら辿り着いた安堵の地であったと考える時、大きな口マンを感じる。遣唐使が活躍した古代から中世に時が移ると、日島には関西方面の都と大陸を行き来した中継地の証として数多くの石塔が残された。石塔群のうちには中央形式石塔があり、それらは関西方面の石工がその地で採れる石を使い、地元で製作し、当地に運ばれたとみられる。五島列島は現在では、日本本土の西端の地であるが、その昔は大陸への玄関として栄え、まさに大陸との架け橋の役割を果たしていたのである。

福江島三井楽

姫島

遠く福江島まで五島列島の連なりを望む その先は大陸 新上五島町江袋

■ **国境の島** 五島列島は西に東シナ海に面し、その海のはるか先は中国大陸へと続いている。古代の遣唐使船はこの島々を後に大陸へと向かった。五島列島は北東から南西方向にかけ140もの島々が連なるが、写真の江袋からその連なりを望むことができる。この連なりこそが国境であることを表している。



大陸への中継ジャンクション 日島



山王山に奉納された宋の鏡

■ **交流遺物** 新上五島町の西端近くに位置する日島・曲地区の礫丘には中世から近世にかけての石塔群が見られる。石塔に使われている素材は関西方面の花崗岩(みかげ石)、福井県若狭方面の日引石(安山岩質凝灰岩)、阿蘇の溶結凝灰岩など島外から持ち込まれた石材が多数みられる。関西方面と大陸との交流があり、日島がその中継地点であったために中央形式の石塔が多数持ち込まれたと考えられている。この日島が属する主島・若松島には新羅時代の渡来仏が伝わる。また、山王山中腹にある二ノ宮跡に隣接する岩窟内部から17面の報賽鏡が発見され、うち2面は船載鏡で最も古いものは宋代の鏡である。山王山は遣唐使船で唐に渡り天台密教を学び、これを日本に伝え、比叡山延暦寺を開いた最澄によって開かれたと伝えられている。



山王山 山頂からの眺望

山王山 二ノ宮

山王山 一ノ宮

山王山 孝行の滝

山王山雄嶽(左)、雌嶽(右)を背景に若松瀬戸、若松大橋を望む。若松瀬戸は昭和30年西海国立公園に指定された。リアス式の典型的な多島海地形である。山王山雄嶽は新上五島町で二番目に標高が高い山である。この山に山王信仰をもたらしたのは比叡山延暦寺を開いた最澄で遣唐使船の無事帰国の御礼という。山麓の集落には雄嶽日枝神社が鎮座し遥拝所がある。雄嶽日枝神社から川を遡ると、雨後に出現する孝行の滝があり、近くの断崖下の岩陰に一ノ宮が鎮座する。



遣唐使の船の安全を祈願して奉納されたと伝わる御船様



御船様の背後には山王山が聳え、遥拝所のようにも見える。

■ **遣唐使** 遣唐使の使命は大陸文化の導入にあり、舒明天皇二年(630)より寛平六年(894)までの約260年間、唐の首都長安に大使、随員、留学僧などが渡航している。入唐経路は難波三ツ浦を出航し、瀬戸内海、下関海峡を経て、筑紫大津浦に寄航、諸準備を整え壱岐、対馬、百済西海岸、三東半島経由で入唐した。始めはこの「北路」であったが、半島情勢の変化とともに種子島、屋久島、奄美島などを経由する「南島路」と変わり、遣唐使末期には五島列島から東シナ海を横断し揚子江口から入唐する「南路」となった。入唐路が五島列島経由になり、遣唐使史跡が残されることとなった。776年には青方湾で風待ち滞在をしたとされ、778年帰国中に大風に遭い、第三船のみが橘浦に辿り着くが、この橘浦が三日ノ浦とされる。804年には第一船に空海、第二船に最澄が乗船し当地に立ち寄ったとされる。肥前国風土記にみえる「相子田の停」、続日本紀の「合蠶田浦」は相河(あいこ)と比定される。あるいはアイコタ、アイカタから青方(あおかた)とも考えられている。



青方湾に寄航した復元遣唐使船



遣唐使が大陸からもたらしたともいわれる五島うどん





青方郷社の青方神社。古名を山玉宮という

青方神社

青方集落

姫神社跡



遣唐使の航海安全を祈願したと伝わる姫神社跡

姫神社

相河(あいご)集落

ともじり石

青方湾と遣唐使関連史跡

遣唐使船航路に準じ、博多港と五島を結ぶフェリー太古(級船)



遣唐使船を繋留したと伝わる「ともじり石」

岩屋観音



りとうのたからもの  
上五島の文化財

青方

三日ノ浦

今里

山王山(御嶽)

山王山(雌嶽)

日本遺産のしま

# 新上五島町

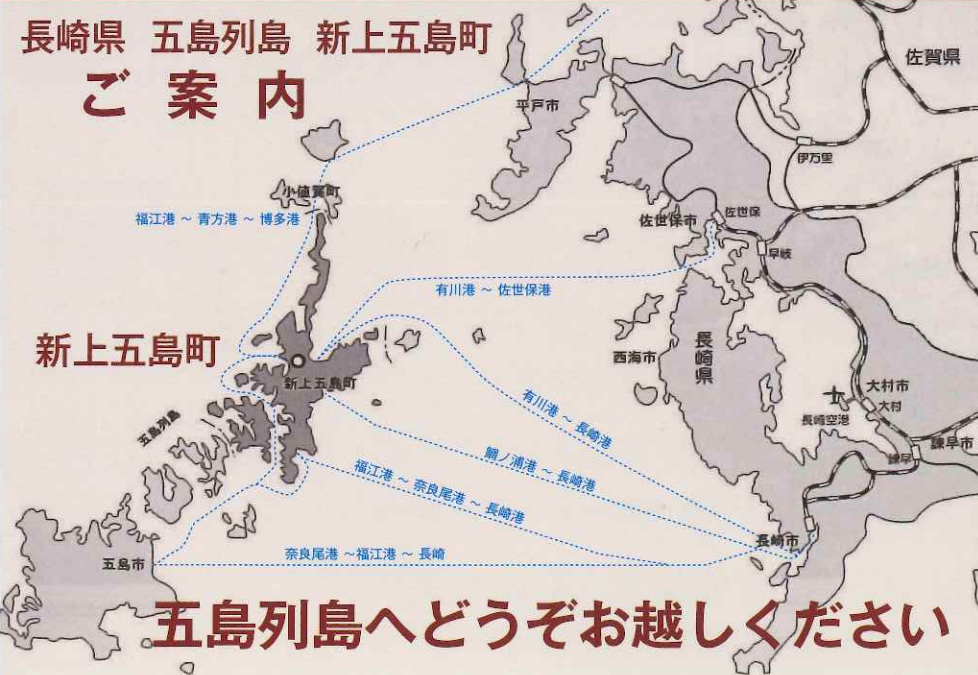
NAGASAKI SHINKAMIGOTO

国境の島

壱岐・対馬・五島  
～古代からの架け橋～

平成27年度認定

**■ 風待港・青方** 青方(あおかた)は旧上五島町の中心市街地で旧有川町の市街地とともに上五島・中通島の中心地である。青方湾は東シナ海を望む湾口に折島や祝言島などが天然の防波堤となり、その奥に深く切れ込む良港である。宝亀七年(776)に遣唐大使佐伯今毛人一行が青方湾で一ヶ月の風待ち滞在をしたが、風に恵まれず、大津に引き返したとされる。青方の赤碕に航海安全の神「田凝姫」を祀り、航海安全を祈願したとされるのが姫神社で、江戸時代になり相河集落に遷座された。青方神社は古名を山王宮と称し、山王山の遥拝所であったというが、寛弘三年(1006)高麗船が攻めてきた時、高麗船の降伏を祈願して大己貴命を祀ったのが始まりとされる。また、青方湾には遣唐使船を繋留したといわれる「ともじり石」が祀られている。



- [ジェットfoil]
  - 長崎港 → 奈良尾港 1時間15分(直行) 九州商船
- [高速船]
  - 長崎港 → 鯛ノ浦港 1時間40分 五島産業汽船
  - 長崎港 → 有川港 約1時間40分 九州商船
  - 佐世保港 → 有川港 約1時間30分 九州商船
- [フェリー]
  - 長崎港 → 奈良尾港 2時間35分(直行) 九州商船
  - 佐世保港 → 有川港 2時間30分 九州商船
  - 博多港 → 青方港 5時間55分 野母商船

## 遣唐使が通った祈りの島 新上五島

いま、29のカトリック教会堂をはじめ、多くの神社や仏閣のあることから「祈りの島」といわれる五島列島、新上五島町。

それは中国大陸に無事渡ることを祈願した遣唐使の「祈り」に始まった。